

V04a JVOの研究開発（全体進捗）

大石雅寿，水本好彦，白崎裕治，田中昌宏，川野元聡，本田敏志，大江将史（国立天文台），安田直樹（東大宇宙線研），増永良文（お茶の水女子大），石原康秀，堤純平（富士通），中本啓之，小林佑介，坂本道人（セック）

ヴァーチャル天文台は，国内外の各種天文データや解析資源をシームレスに連携し，超大量データ時代の新しい天文学研究基盤を提供しようとするものである。JVOは，2004年12月に国際ヴァーチャル天文台連合標準の基盤技術に基づいて他国VOとの相互連携に成功し，現在200以上の天文データベースと国立天文台及びJAXA/ISAS内の複数のデータベースへの透過的なアクセスが可能となっている。2006年8月からはデータサービスを一般に公開している (<http://jvo.nao.ac.jp/portal/>)。

国立天文台では，JVOの機能を拡充するべく，サイエンスの幅を広げる分光データに対する各種アクセス機能を追加（川野元の講演参照）するとともに，様々なサーバに対するデータ検索やデータ解析をパイプライン的に処理するためのワークフローの高機能化（田中の講演参照），また，大規模なデータ処理を可能にするためのグリッド技術の活用を図る（白崎の講演を参照）などの研究開発を実施した。

本講演では，e-Scienceの例として各方面から認知されつつあるJVOの研究開発の進捗について概観する。